

教員と学生の授業交流カード「大福帳」

美術教育講座 富山 祥瑞

●「大福帳」とは

2年ほど前、私は「大福帳」というカードが三重大大学の高等教育創造開発センターで啓蒙されているのを知りました。「大福帳」とは、もともと江戸時代に商屋で使われた金銭出納帳のことですが、ここでは「学生の授業参画促進ツール」としてのカードを指します。成績原簿の俗語である「閻魔帳」に対し、教員と学生との授業交流カードという考えから「大福」なのです。10年ほど前に三重大大学で織田揮準先生（現・皇學館大学）が始められて、今では須曾野仁志先生が継承・研究しています。

三重大大学の須曾野先生に連絡を取り、私がこの「大福帳」を導入したのは、2008年後期の授業からです。2009年度は全学的教科3科目と専攻の2科目で実施しました。

● たいへんだけど、学生の思考の様子がわかる

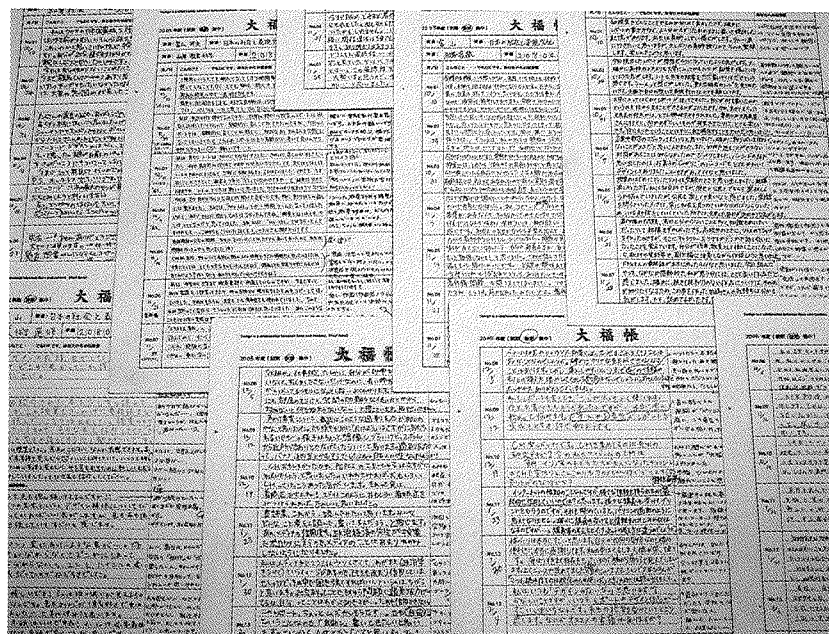
「大福帳」とは、毎授業の終了直前に「授業に関する意見や感想」を求める一種の受講カードで、以下に示したのが概略です。

- 1) 毎授業のはじめに大福帳を学生に返却する。
- 2) 学生は、授業終了の直前に授業に関する意見・感想などを大福帳に記入する。
- 3) 次週の授業までに、教師は朱書する。

受講学生が多いほど、教員にはたいへんなシステムです。しかし三重大大学の実践成果「多数の受講生を対象に行われる一斉指導型の授業では、その日の授業内容や授業法等に関する受講生の感想や意見を得ることは容易ではない。教師は学生からのコメントに励まされて、授業内容の精選、教材の作成、教授法の工夫、授業の準備など、より魅力的な授業作りのための努力と工夫を維持することができた」に触発され導入しました。

● 授業デザインのチャートに

受講学生一人への返信への書き込みは相当ハードです。途中で止めるわけにはいきません。しかし、予想以上にビッシリとお手紙を寄せる学生も多く、私自身の励みになっています。2009年度後期は週当たり約120人ですが、それでもどうにかこなせるというのが実感です。何より、教員経験の浅い私には、授業デザインの大きな指針になっています。



「日本の社会と表現文化」での学生とのコミュニケーション記載例